

令和4年度地域包括支援センター事業中間評価（令和4年11月末時点）

印西市船穂地域包括支援センター

事業ごとの評価	
総合相談支援業務	昨年度と比較して、相談内容の内訳では介護保険、認知症、家族に関する内容が増えており、1つの相談に対して複数の内容にまたがっている傾向が見られている。職員のスキルの向上はもとより、今後さらに高齢分野以外の他支援機関との連携を図っていく必要がある。
権利擁護業務	虐待について対応はないが、虐待が疑われる段階での相談対応は2件あった。虐待を未然に防げる状況での関与を引き続き継続していく。消費者被害について、消費生活センター等から情報提供を受けカフェ等で情報提供を行った。
包括的・継続的ケアマネジメント業務	個別地域ケア会議を通してケアマネジャーが警察、スーパー、民生委員等の地域とのネットワーク構築ができるよう支援を行った。また、生活支援コーディネーターが各居宅介護支援事業所を訪問し、地域の社会資源の情報提供を行った。
地域ケア会議推進事業	個別ケア会議1回、地域ケア推進会議を2回実施した。コロナ禍で停滞していた地域の集いの場の関係者に対して、「地域には集いの場が必要です」というテーマのもと、活動方法や継続について情報の提供、交換等の支援を行った。
在宅医療・介護連携推進事業	在宅医療・介護連携、認知症対策推進会議に委員として出席し、市の事業計画を共有した。多職種連携研修会や在宅医療・介護市民講演会等の支援を行った。
認知症施策推進事業	認知症カフェを5回開催した。民生委員や自治会の協力のもと、認知症サポーター養成講座を2回実施した。認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていくことが出来る地域づくりを目指し、「高齢者見守り声かけ訓練」の実施を計画していく。

生活支援体制整備事業	<p>昨年度実施した自治会長アンケートの結果に基づき、民生委員、支部社会福祉協議会と共催し「知ってる？わたしのまちの支えあい 地域福祉フォーラム」を開催した。</p> <p>世代や障害、認知症等に関係なく誰でも参加できる場として、「ふれあいカフェ」を6回実施した。</p> <p>シルバー人材センターが生活支援サービスを開始するにあたり、情報提供等の支援を行った。</p>
令和4年度事業中間評価（総括）	
<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数は昨年より減っているが、相談者の利便性を考慮し、出張相談会を行い積極的なアウトリーチに努めており、より効果的な取り組みについては検討課題とする。また、センター職員が濃厚接触者、コロナ陽性者となった期間があり、その間は訪問を自粛したことも影響があったと思われる。 ・圏域の中には高齢者人口は多いが相談件数が少ない地区があり、対象地区の自治会、民生委員、高齢者クラブ、ちょきん運動等に声をかけ、地域ケア推進会議を行い、改めて地域包括支援センターについての周知を行った。広報誌を作成し、高齢者クラブ、ちょきん運動、医療機関、薬局等に直接足を運び、センターの周知活動を行っており、今後も定期的に継続していく。 ・昨年度地域ケア推進会議の課題であった「男性介護者の支援」についての試みとして、「男性介護教室～男はつらいよ～」を開催した。男性の居場所づくりも念頭に置き、今後も実施していく予定。 ・昨年度実施した自治会長アンケート結果にて、民生委員や支部社会福祉協議会、地域包括支援センターについての周知、また地域での支え合い活動の必要性を理解してもらうことが必要という結果に至った。この結果を踏まえて、生活支援コーディネーターが中心となり、民生委員、支部社会福祉協議会、センターと話し合いを重ね、「知ってる？わたしのまちの支えあい 地域福祉フォーラム」を開催した。フォーラムでは寸劇を行い、地域福祉について身近な「我が事」として知ってもらえるような内容とした。関係機関とフォーラムを実施することで、今まで以上に強固なネットワークづくり（協議体）を行うことが出来たと実感している。 	